

ありがとう

旧庁舎

平成30年7月に宮古市中心市街地拠点施設（イーストピアみやこ）が完成し、同年10月から供用開始となりました。今年の7月から旧市役所本庁舎と旧宮古分庁舎の解体工事が始まっています。これまで、長年にわたり市民サービスの拠点として、また、市民のよりどころとして活用されてきた庁舎の歴史や、建設当時の様子について振り返ります。

旧庁舎の歩み

旧庁舎の歴史を写真とともに紹介します。

年代	出来事
1967年 (昭和42年)	初代・宮古市庁舎が火災により延焼。解体され、業務を5カ所に分散して実施
1972年 (昭和47年)	旧本庁舎が完成、落成式・市制30周年記念式挙行
1979年 (昭和54年)	分庁舎開庁。建物は岩手県から合同庁舎(昭和37年落成)の払い下げを受けたもの
2005年 (平成17年)	宮古市、田老町、新里村が合併
2010年 (平成22年)	宮古市、川井村が合併。現宮古市誕生
2011年 (平成23年)	東日本大震災により被災
2016年 (平成28年)	台風10号により浸水
2018年 (平成30年)	旧本庁舎、旧分庁舎閉庁。46年間の役目を終える



平成30年9月28日に行われた閉庁式の様子



完成当時の旧本庁舎（昭和47年5月撮影）



横断歩道橋が完成する前の旧本庁舎前の庭園（昭和48年6月撮影）



県から払い下げを受けた分庁舎（昭和59年5月撮影）



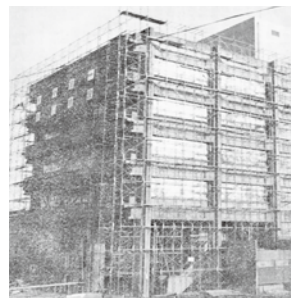
東日本大震災により被災した旧本庁舎の市民ホール（平成23年3月撮影）



東日本大震災により被災した横断歩道橋・分庁舎（平成23年3月撮影）

旧庁舎の思い出

腹子哲男さん（75歳）
元市職員・庁舎建設を担当（昭和43年度～平成15年度勤務）



建設中の旧日本庁舎（昭和46年12月撮影）

当時、冷房設備を設置する際は冷凍機を使用するのが一般的で、「冷房はぜいたく」と言われ、官公庁には冷房設備が無い時代だった。そこで、当時の水道事業所の担当者の提案で、「庁内に井戸水を回して送風することとで冷風を出す設備」を設置することになった。地盤に40センチのくいを入れた時には、くいが長く国道106号を運ぶことができなかったため、船で運び、港からトラックで運搬した。

川原田行雄さん（90歳）
元市職員・落成式を担当（昭和24年度～62年度勤務）



旧本庁舎建設前は、5カ所に庁舎が分散していたので、集約されるのがうれしかった。エレベーターや広いロビー、市民ホールがあることにも感動した。引越後に初めて行った避難訓練では、

当時の宮古では珍しい高さだった4階（地上約10メートル）からの脱出シュートを使った避難訓練を実施し、非常に緊張した。



旧庁舎落成式での様子（昭和47年7月撮影）

木村政雄さん（89歳）
築地在任、元市議会議員（昭和41年～平成10年在任）



旧庁舎を建設する際にも特別委員会を設置して、庁舎建設について議論を重ねた。それまでの議場は、円形の会議テーブルのような座席だったが、旧庁舎が完成して国会や県議会と同じ、対面

坂本 和さん（54歳）
建設当時新川町在住



1階にあったミニ水族館（昭和50年3月撮影）

旧庁舎が完成した頃は小学生で、市民ホールにできたミニ水族館を観るために、学校帰りによく市役所に寄り道していた。宮古近海の魚やカニもいて、分厚いガラスをたたくと、魚を驚かしたり、友達と一緒ににはしゃいだりしていた。当時は珍しい魚が水揚げされると、ここに展示されるので、観に行くのが楽しみだった。

形式になった。当時私は新人議員で、新しい議場に足を踏み入れた際は、とても格式高く感じ、感慨深いものだった。



旧庁舎の議場の様子（昭和47年6月撮影）

タイムカプセル

旧本庁舎建設に際して昭和46年11月2日に行われた定礎式で、当時の中居英太郎市長の手で、タイムカプセルが埋められました。その中には、職員録や議員自らが名前を書いた議員名簿、新聞などが入れられているとのことです。



定礎式でタイムカプセルを埋める中居市長

8月19日に行われたタイムカプセル掘り起し式で掘り起こされた定礎石とタイムカプセルの内容物については、取り出した後、イーストピアみやこで展示を予定しています。



掘り起こされたタイムカプセル

旧庁舎の解体

旧分庁舎は年内に、旧本庁舎は来春には解体される予定です。なお、旧庁舎の跡地は市民が憩える場所になるよう現在設計について検討中です。

■問い合わせ 市復興推進課拠点施設推進室（☎9089）